



ほけんだより

2023年6月発行
学校法人織田学園
おだ認定こども園

園内の感染症発生情報は
れんらくアプリ『おしらせ』で発信中！

●少しずつ暑さに慣れる『暑熱順化』体づくりの季節です！

梅雨が近づき、真夏に比べ気温や湿度の変化が大きい季節です。人間の体は気温の上昇を感じると、全身の皮膚の血流を急激に増やして汗をかき、体の熱を外に逃がして脳や内臓を守るよう調節します。子ども達の体は成長途中で、うまく調節して熱を逃がせない時は体内にこもり、熱中症になる危険もあります。日々の遊びの中で「暑熱順化」を促進し、真夏の暑さに負けない体の調節機能を育てましょう。

●5月感染症等：新型コロナ、流行性結膜炎、アデノウイルス、胃腸炎、ほかに高熱・咳の風邪

●6月4日～『歯と口の健康週間』

むし歯の原因には、『歯の質』『糖質（砂糖など）』『細菌（ミュータンス菌）』の3つの要素があります。これらの3つの要素が重なると、『時間の経過』とともにむし歯の発生につながります。

●砂糖は全部ため？

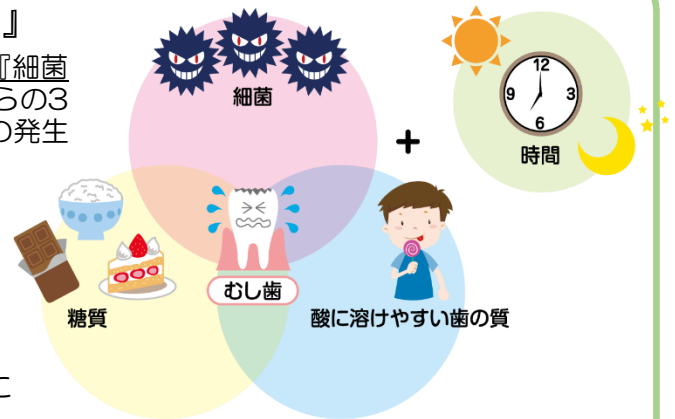
⇒朝・昼・夜の食事や、園の給食・おやつ等、決まった時間に食べる食事を使う砂糖や糖質は、成長する子どもの脳や体の大切なエネルギーです。

●注意したい食品は？

⇒ジュースなど甘い飲み物、歯に残りやすい食品を、時間を決めずだらだら食べると、上の前歯や奥歯に虫歯ができやすくなります。

●気をつけたい習慣は？

⇒鼻づまりは口呼吸の原因の一つで『口がポカンとあく』状態に。歯の表面が乾燥し、虫歯や歯並びに影響する場合があります。



子どもの歯の情報
『ママ、あのね』
(公財)ライオン
歯科衛生研究所

『水いぼ』は肌のケアが大事！

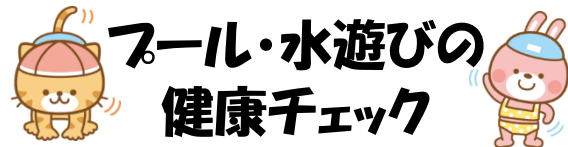
- 『水いぼ』は、ウイルスによる皮膚感染症で、治るまで1年以上かかる傾向があります。
- 肌のバリア機能低下で広がりやすく、ひっかく傷で増えます。数が少ないうちに皮膚科を受診して、スキンケアについて相談しましょう。
- 水いぼの治療方針は大きく2つ『ピンセットでとる』『肌を保湿しながら免疫がつくのを待つ』があります。根気よく取る場合もありますが、最近では処置後の傷が化膿してとびひになる、免疫がつくまでは増える事もある、子どもの苦痛を伴う、などの理由から、小児科・皮膚科とも、免疫がつくのを待つ方針の医師が多いようです。



●登園について：水いぼの部分は、他のお子さんと接触してうつさないように保護するか、服で隠れるようにして登園して下さい。

●水遊び・泥遊び・プール：部位や数により、注射後のシール状絆創膏やラッシュガード等を使用して、周囲と患部の肌の接触を防ぐよう配慮をお願いします。

●対応方法やご心配なことは、担任や看護師にご相談下さい。参考：日本小児皮膚科学会



- *こまめに手・足の爪を切りましょう。子どもの爪は伸びるのが早く、割れやすいため、自分も他の人も傷つけてしまいます。
- *お子さんの髪や肌の状態をチェックしましょう。水いぼやアタマジラミは、早期発見が肝心です。初めての時は、かかりつけ小児科や皮膚科で相談しましょう。

●こんなときはあそべません●

- ・前日～当日、37.5℃以上の熱がある
- ・咳がひどい、のどに痛みがある
- ・下痢・腹痛の症状がある
- ・目が赤く充血している。目やにが多い
- ・とびひなど、皮膚に傷がある時は治るまで
- ・朝食を食べない、食欲がない時
- ・上記以外でも『いつもと違う』と感じる時

ワクチン.net

←感染症と予防接種の情報をアップデート！